

名古屋 文化 情報

2012
5
May.

No.338
NAGOYA
Cultural
Information



2012
5
May.

Contents

五月のうた	2
随想 坂倉 守 写真家	3
視点 舞台公演のための劇場の今を考察 まとめ/倉知外子	4
この人と… 山内一生さん(下) 聞き手/田中由紀子	6
ピックアップ	8
おしらせ	9



表紙

作品

「子供の顔 - ウサギ」

(2003年/529mm×410mm/木板・綿布・白垂地・テンペラ・油彩)

娘がシャンプーの時鏡の前で、
髪で団子を二つ作り「クマ!」、
続けて髪を引っ張って「ウサギ!」と叫ぶ。
イメージはそんな日々の暮らしや過去の記憶から生まれる。

中澤 英明 (なかざわ ひであき)

1955年 新潟県生まれ

1981年 東京藝術大学大学院美術研究科修了

1996年 「子供の情景展」三重県立美術館

2004年 中澤英明「子供の顔」展 愛知県美術館

2006年 「内なるこども」豊田市美術館

2012年 「魔術/美術 幻視の技術と内なる異界」愛知県美術館

現在 名古屋芸術大学美術学部教授

五月のうた

また春が

わたなべ かずお
渡辺 和尾

菜の花の影から翳り飛び立った

間違いを三つ重ねて鳥になる

確実なものはないにもなくして

日暮れなり

折れ重なり斃れている花と人

なにことも夢から醒めてからのこと

春は、寒さから立ち直り、立ち上がり、飛び上がり、行動する季節。鳥は舞い、囀る。花は蕾から開く。人は伸びをして、お腹から、奇妙な、呻きのような声を発する。呻きのような、とは言っても、安心感のほろが強いと感じられる発し方である。いつもの年と、なんら変わらないようで、どこそこ違っても感じる。そんな五月の町や野に立って、空や川に目を向けてみると、夢や未来が目前に浮き上がってくる気がするのである。

随想

路地を抜け、まちを歩く 空き地や空き家もアートスペース



さかくら まもる

坂倉 守 (写真家、常滑フィールド・トリップ実行委員長)

車も通れない細い路地の奥にある一軒の廃屋。庭を埋め尽くす一面の草。つる草が屋根まで伸び、まるでアーケードのように覆いかぶさる。「トトロみたい」と若い観客が歓声をあげ、ワクワクした面持ちでその下を通り抜ける。様子をうかがいつつ、家の中に足を踏み入れる。ほこりの臭い。薄暗い室内。人が住まなくなって何年にもなる荒れ果てた家屋。窓からの光の落ちるところに透明なガラスの球体が無造作に転がっている。内部に封じ込められたいくつもの気泡が、差し込む光を乱反射させ美しく輝いている。窓の外では、家を包み込む緑色の草の葉が風にそよぐ。いつしか、その場に立つ人の内に不思議な静けさが訪れる。

これは、私たちが企画運営している町並みを利用したアートイベント「常滑フィールド・トリップ2011」の会場11カ所の内の一光景である。2008年から始められたこの企画は、今年2012年で5回目を迎える。このような企画は今、日本各地で数多く行われている。その経緯や内容は、それぞれの地域ごとの事情により異なっており、すべてをひとくくりにして語ることはできないが、この時代のひとつのムーブメントといえるだろう。

私たちがこの企画をはじめたのは、地域の行政や商店街などから依頼があったわけではなく、たまたま常滑で古い工場を改装したアート&デザイン

の共同工房の開設に参加したことがきっかけである。そこには私たちと関わりの深い芸大生や卒業生が様々に出入りし、また周辺には手ごろな空き地や空き家がいくつも点在しており、条件が重なったのだろう。自然と機運が盛り上がり、自分たちの表現意欲が活力源となって動きはじめたのである。少しずつ地域の人々との協力関係も築かれ、活動の継続とともに目に見えない網目が地域内外に多様に広がりだしているのを実感している。

冒頭に紹介した作品は、学生が大学の課題で制作した習作のガラス作品を廃屋の中に設置しただけのものである。同級生の作ったものも借り出して各部屋にひとつずつ配置した。会場の借用など地域の人々の協力も含め、その他様々な人や場所のチカラ、時代の流れなどがひとつに集まり思いがけず別の形態の作品として、ひとときカタチを現したのである。

どの会場も会期が終われば何事もなかったかのように日常を取り戻し、町はいつもの風景にかえる。だが、その眺めに重なって見えてくるのは、人間の歴史や社会という奥行きと広がりの中で、多様なものごとが様々に明滅している風景なのである。

常滑フィールド・トリップ ホームページ
www.tokoname-fieldtrip.jp

舞台公演のための劇場の今を考察

名古屋市民会館（現在の中京大学文化市民会館）は今年、開館40年をむかえ記念公演が開催されています。その一方、数年前より市内の中規模ホール、愛知厚生年金会館と愛知県勤労会館が閉館となりました。客席数が1000～1500席の中規模の公演などで常用してきた洋舞の舞台関係の人は不便を感じています。・・・洋舞に携わる一人として狭義ではあるが公立の劇場にしぼり考察したいと思います。（まとめ：倉知外子）

劇場（舞台実演家のためのホール）の変遷

1930年に昭和天皇のご成婚を記念して建設された名古屋市公会堂は、名古屋初の公立文化施設であった。1945年には敗戦により米軍に接收され、1956年に正式返還された。戦後の名古屋で開催された舞踊、音楽、オペラなどの大規模な公演のほとんどが、この劇場であったことから、戦後復興と文化芸術の発展に果たした役割は大きい。現在も自然と文化の共存する環境の良い鶴舞公園内にあり、昭和初期の名古屋の近代建築を代表する建物のひとつとして、1989年に名古屋市景観重要建築物に指定され、講演会、学校行事、発表会など一般市民に利用されている。



名古屋市公会堂（昭和区）

その後、愛知文化講堂が1958年開館。1992年の閉館まで舞台公演のメッカであった。筆者もこの会場を確保するのに苦労した記憶がある。34年間愛用されたが、建物の老朽化などで愛知芸術文化センター〈愛知県芸術劇場〉の完成とともに廃館となった。

そして、愛知県勤労会館（1970年開館）、名古屋市民会館（1972年開館）、愛知厚生年金会館（1980年開館）、名古屋市芸術創造センター、まだ記憶に新しい名古屋市の各区にある文化小劇場13館、名古屋市青少年文化センター（アートピア）、ウィル愛知、ウインク愛知が開館してハードが整ってきた。



愛知芸術文化センター〈愛知県芸術劇場〉（東区）

時代の変化が劇場にも影響を与える

「ハードからソフトへ」と人材育成の見直しが叫ばれ久しいが、相次ぐ大震災などの影響で建物の耐震の対応に迫られ、また経済状況による存続の厳しさなどの影響をうけて、厚生年金会館と勤労会館が閉館した。中規模ホールは市民会館中ホールのみとなるため、利用者は企画をするにも劇場の規模にあわせるのに四苦八苦。また、舞台機構も進化しているので、新しい技術の習得など取り込んでいくことを求められる。



名古屋市民会館（中区・金山）

利用者の苦悩

劇場の規模は利用者にとって、作品にふさわしい舞台の面積、舞台機構、観客動員可能な客席数、楽屋の部屋数など企画するベースとして重要である。「大は小を兼ねる」というが劇場空間においては当てはまらない。大ホールを中規模の企画で使用できるが、客席の空席がなんとも寂しいし、舞台が遠すぎる。小ホールとなると観客動員目標に比して1回公演では観客がしぼられすぎる。2~3回以上の公演となると経費が増幅するし作品も小空間に納まらない。愛知県勤労会館で開館時より40年間、毎年公演を開催してきた松岡伶子バレエ団の松岡伶子氏は「個人や市民団体においては無理なく手ごろに利用できる施設は客席数1000席前後と思う。ダンサーは客席が満席になった時の不思議なエネルギーやパワーで充実度が増し、観客と程よい距離に、呼吸とぬくもりを感じることができる。また、舞台の面積や舞台の高さは、作品創りには重要なことなのだが、今の状況では妥協しかない」と語られた。市内の洋舞関係者も皆、同じ状況にある。現代舞踊協会中部支部副支部長の島田一也氏は「合同公演では中規模ホールならば1回公演で満席になるが、大ホールでは出演者に負担がかかる。会場規模にあった作品、観客、経費で公演が成り立つ中規模ホールの充実を望んでいる。名古屋市芸術創造センターでの公演が多くなっているのが現状だが、客席数が少ないので入場券の制限をしている」と残念そうに語られた。



名古屋市芸術創造センター（東区）

劇場が文化、芸術の豊かさを創り出す

「ハードからソフト」または、「コンクリートから人へ」と様々な表現が変遷しながらも、ソフトの充実が豊かな社会に求められ続けてきたスローガンである。劇場の役割は、学習、交流、創造発信、鑑賞のために市民が集まる場であること。人間が創出する文化、芸術を豊かにするためには、表現者が各々に日々、切磋琢磨するに始まり、その集合体となった表現者団体が劇場という集合空間で創造作品を表現し、観客と相互に感動を交換し合ってこそ、そこに豊かな文化、

芸術が生み出されると考える。表現者は、その機会が多いほど充実度が増し、育成されるし、舞台裏のスタッフの人材育成も同時進行する。だから、こうした体験の場が企画の規模にあう、バランスのよい数だけ存在していたら理想的。

現在、市内で洋舞関係者が主に使用する劇場

名古屋市民会館大ホール（2291席）中ホール（1146席）、愛知県芸術劇場大ホール（2476席）小ホール（282席）、名古屋市芸術創造センター（640席）、青少年文化センター・アートピアホール（724席）、名古屋市文化小劇場13館（250~450席）である。現代舞踊・コンテンポラリーなどは愛知県芸術劇場小ホール、千種文化小劇場、名東文化小劇場などを小空間ならではの公演で利用している。特に千種文化小劇場は八角形の舞台をすり鉢型で客席が囲み、特異な劇場空間となる。客席数が250席と少ないのが惜まれる。



名古屋市千種文化小劇場（千種区）

その他、市外近郊に長久手市文化の家（森のホール、風のホール）、春日井市民会館、知立市文化会館、碧南市芸術文化ホール、豊明市文化会館、扶桑文化会館、刈谷市総合文化センターなどがあり、その地域を主な活動拠点とする舞踊団・グループが利用している。

近い将来に開館を望む

瑞穂区に住む島田一也氏は「音楽、舞踊、演劇に適した設計をすでに終了した瑞穂文化小劇場を整備することが市議会にて採択され、建設する方針が示された。客席数は少ないが舞台の条件がよいので、個人的には利用しやすいと思う。完成はまだ先のようなが、期待している。また、公会堂は今の実演家のニーズ（奥行きのある舞台、傾斜した客席、照明・音響設備の充実など）に対応するリニューアルが成されれば中規模ホールとしての利用が増えるのではないかと述べられた。

参考文献 「焼け跡のカーテンコール」伊豫田静弘 著

この人と...



和紙工芸作家・日展参与

やま うち いっ せい

山内 一生さん 下

小原の豊かな自然と真摯に向き合う

藤井達吉との出会いをきっかけに、作家を目指すようになった山内さん。日展に出品するものの落選が続き、周囲からは「藤井ボケ」と馬鹿にされ続けた。そんな逆境にも負けず、藤井を信じて制作を続け、1953（昭和28）年に日展初入選を果たす。今回は作家として歩み始めた50年代から、小原和紙工芸の評価を高めるべく、日展審査員として、指導者として活動する現在までを伺った。

（聞き手：田中由紀子）

好景気に背中を押されて

念願だった日展初入選を果たし、それ以降は18回入選。その5年後には松坂屋名古屋店画廊で個展開催（以降12回）と、山内さんは作家として順調に歩み始めた。

「今では考えられませんが、個展会場に来場者があふれ、対応に追われて昼食を取れなかったことも。でも絵がうまいから売れたんじゃない。当時は高度経済成長で、景気は右肩上がり。いい時代に作家になれただけだと思います」。

当時は繊維業が盛んな一宮や蒲郡がガチャマン（ガチャンと織れば1万円儲かる）景気に沸いた頃。そんな時代背景も手伝って、小原和紙工芸の評価は次第に高まっていった。皇太子殿下（現天皇陛下）御成婚祝いの献上品の制作を愛知県から依頼されたのは、そんな機運が高まる頃だった。

皇室との縁を結んだ屏風制作

1959（昭和34）年、皇太子殿下御成婚祝いに、愛知県は加藤唐九郎の茶碗と小原和紙漉き込みの六枚折れ屏風一双を献上。小原工芸会にその制作が依頼されたのだった。

「私を含めて5名で共同制作しました。紅梅と白梅を大胆にあしらった屏風でしたが、12枚もあるので花が少なくてもいいように、花を大きくしたことを覚えています。美智子様が気に入られて、今でも使ってくださっているようです」



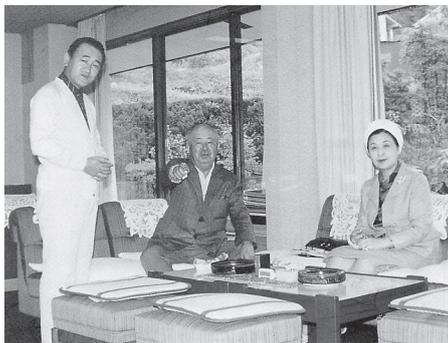
皇太子殿下（現天皇陛下）御成婚祝いに献上された六枚折れ屏風

山内さんの言葉どおり、その屏風は皇室の様子が報道される折にはメディアにもしばしば登場し、その後2度も修復することに。

「修復するより新しい屏風をつくった方がかえって早いし楽なので、2回目に修復の依頼を受けた時、宮内庁の方に『新しいものを買ってほしい』と言ったら、『美智子様はこの色が好きでいらっしゃるから修復で』と。でもそれくらい気に入ってくださっているということですから、うれしいかぎりです」。

皇太子ご夫妻が工房に

この屏風制作が山内さんと皇室をつなぐきっかけとなり、1976（昭和51）年には高松宮妃殿下が山内さんの工房を訪問。1979（昭和54）年には全国植樹祭の折に昭和天皇、皇后両陛下の前で小原和紙制作を披露した。そして



高松宮喜久子妃殿下と（山内さんは左）



皇太子殿下（現天皇陛下）ご夫妻が工房をご訪問

1983（昭和58）年には、皇太子ご夫妻が工房にお越しになることに。制作工程のご見学ならば、近くにある小原和紙工芸の展示・体験施設「和紙のふるさと」で十分なはずだった。「県庁と警察が、こんな田舎は警備がたいへんだからと反対したが、美智子様のご希望だからと宮内庁が押し切ったそうです。それほど、あの屏風がお気に入りだったのでしょ。だから、1985（昭和60）年に買い上げていただいた二枚折れの屏風は、美智子様のお好きなオレンジ系の色を使ってつくりました」。

小原和紙を芸術として認知させる

その間、1965（昭和40）年には、日展特選北斗賞を受賞、翌年には日展無鑑査となる。山内さんへの評価の高まりは、小原和紙工芸の評価の高まりでもあった。

「これまで小原工芸会から日展の審査員が4人出ましたが、私が初めての審査員でした。日展には日本画、洋画、書などの分野がありますが、当時は“紙”という分野がなく“雑”でした。初入選の時も“雑”でなんとでも情けなかった。私たちが審査員になってから“紙”という分野ができたんです」。



1995（平成7）年、宮内庁買い上げの《四曲屏風・麦》

紙に絵の具で絵を描いた絵画は芸術品だが、紙そのものが芸術品とは考えられていなかった時代。小原和紙を芸術品の域に高めたのが藤井達吉ならば、日展を中心とする活動をとおりて小原和紙を芸術品として社会に認知させたのは、山内さんをはじめとする小原の和紙工芸作家の功績といえるだろう。

紙に絵の具で絵を描いた絵画は芸術品だが、紙そのものが芸術品とは考えられていなかった時代。小原和紙を芸術品の域に高めたのが藤井達吉ならば、日展を中心とする活動をとおりて小原和紙を芸術品として社会に認知させたのは、山内さんをはじめとする小原の和紙工芸作家の功績といえるだろう。

人脈こそ財産

そんな山内さんが最も大切にしているのが人脈。人間関係がなによりの財産だという。

「親がいなかったせいもあり、子どもの頃から要領はよかった。買ってくれそうな人の所に行って買ってもらったり。デパートでの個展では売らなければいけないので『展覧会をやります』と連絡すると、作品も見ないで『あなたのいいヤツに印つけときゃあ』と言ってくれるお客さんがたくさんいました。100点中の99点がそうやって売れたこともあります。作品よりむしろ、私という人間を買ってくれるというわけです」。

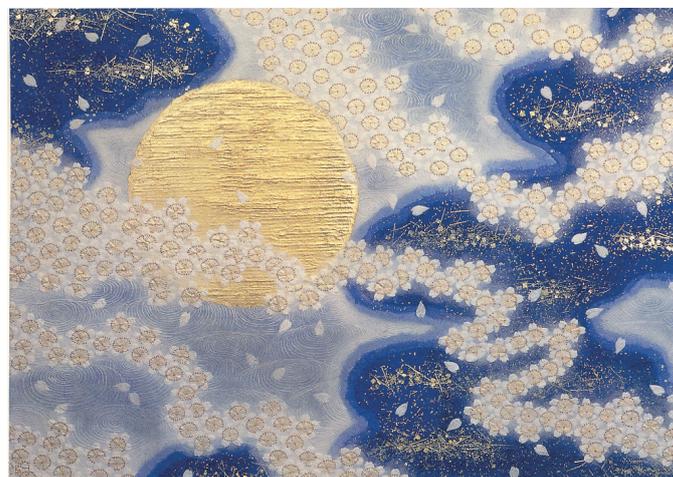
山内さんの作品が海外でも知られているのは、こうした人脈によるところも少なくない。

「トヨタ自動車とは45年くらいのつきあいになります。役員の方が海外に行かれる時には私の作品を持って行き、取引先に差し上げるようです。最初の頃は安い値段でしか買っていただけかもしれませんが、それからトヨタ自動車は破竹の勢いで業績を伸ばし、そのおかげで作品の値段も部品並みに上がっていきました（笑）」。

小原の自然から学ぶ

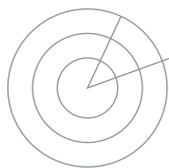
現在は自身の制作の傍ら、後進の指導にもあたっている。「作家活動を始めたばかりの孫には口を出してしまうこともあります。弟子には一度も教えたことはありません。『技術は盗むもの』『見て覚えよ』と。それは藤井先生の教えでもあります。先生は『自然に同じものは一つとしてない。自然から学べ』とも言われました。周囲には描くべきものがたくさんありますから」。

山内さんからこの言葉を聞いた時、工房に向かう道すがら、山あいの豊かな自然を目の当たりにした筆者は、山内さんの作品に描かれていたのは四季折々の小原の風景だったのだと実感した。山内さんの口から語られることはなかったが、現在の山内さんがあるのは、才能に恵まれたことはもとより、それに甘えることなく藤井の教えを今もなお胸に深く刻み、小原和紙と、そして小原の自然と真摯に向き合っているからだと感じないではいられなかった。（了）



1995（平成7）年、天皇・皇后両陛下に愛知県から献上された《春風》

ピックアップ



「痕跡」から広がる世界

犬山で「古書 五っ葉文庫」を営む古沢和宏さんが、2月に『痕跡本のすすめ』（太田出版）を上梓した。「痕跡本」とは感想や傍線、献辞等の書き込みや、手紙やメモ類といった挟み込みなど、かつてその本を所有していた人の形跡が残された本をいう。聞き慣れない言葉と思われる方も多いただろうが、それもそのはず、「痕跡本」は著者自身の造語だという。

本書は古沢さんのもとに集まってきたユニークな痕跡本を紹介するブックガイドだが、自ら「全ページ妄想」（「あとがき」）と告白するように、著者が想像力を駆使して読み解いた痕跡の背景、いわば痕跡から喚起された物語がガイドの中心を占めており、ここが一番の読みどころである。たとえばある高名な歴史小説家の追悼記事に書き込まれた「負けたくない」という言葉。このたった一言から、大家に対して憧れや反発、認められたいという願望など複雑な感情を抱く一人の読者の姿が見出される。かと思えば、恋文を集めた本と、最終頁に記された童謡の歌詞という一見ミスマッチな組み合わせに、持ち主の幼年時代の恋の思い出を読もうとする……といった具合。古書流通の世界ではとかく傷みや汚れとしてマイナス査定されがちな「痕跡」に、逆にオンリーワンの価値を発見しようとする提案は新鮮だ。「痕跡はその本を愛した記録です」と語る古沢さん自身の「痕跡本」への愛情が伝わってくる、愛の連鎖反応のような一冊なのである。一方で痕跡の中

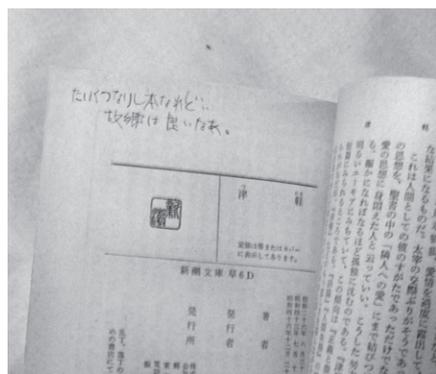
にはしおり代わりに使ったDMなど個人情報を含むものがある。そうした元の持ち主を調べることはリアルに接触することはモラル違反であり、「痕跡から物語が消える」行為だと警告することも忘れていない。

1979年生まれの古沢さんと古本との縁はマンガ家志望だった高校時代にさかのぼる。大学生になると名古屋の老舗古書店はもちろん、新古書店と呼ばれるチェーン店やマンガ専門店にも通いつめ、その過程で後に痕跡本と名づけることになる最初の一冊（今回の本のなかで最初に紹介されている）に出会ったという。今後は本を持ち寄っての参加型の読み解きや、対話形式のトークイベントを通して痕跡本の魅力を広めたいと話してくれた。

多様な痕跡を通して見えてきたのは、本の読み方は実に人それぞれで個性的だということ。本というシンプルなメディアは、それゆえに広々と自由な場所でもあるのだ。（M）

インフォメーション

- ・古書 五っ葉文庫：犬山市犬山薬師町11-4 キワマリ荘1階
4月までは日曜のみ、5月からは金・土・日の13:00～19:00開店。
<http://ameblo.jp/itutubabunko/>
- ・「Artholic Freepaper」（インタビュー掲載）
<http://artholicf-interview.blogspot.jp:80/>



本に残された「痕跡」



古書 五っ葉文庫



古沢和宏氏

藤原道山×SINSKE「ボレロ」2012 ～尺八とマリンバによる世界最小オーケストラ～

尺八の新たな魅力を拓く若き第一人者として邦楽のみならず幅広いジャンルで活躍中の藤原道山(ふじわらどうざん)。ヨーロッパで研鑽を積み数多くの受賞歴をもつマリンバ奏者SINSKE(シンスケ)。

尺八とマリンバだけで奏でる「ボレロ」(ラヴェル作曲)など、各地で高い評価を得ている世界最小編成オーケストラが熱田文化小劇場に登場!それぞれのソロも交え、邦楽、クラシック、オリジナル曲等幅広いレパートリーのコンサートです!

日 時	5月18日(金)18:30
会 場	熱田文化小劇場
曲 目	ラヴェル/ボレロ、ハッハ/管弦楽組曲第二番より ムソルグスキー/展覧会の絵 滝廉太郎/荒城の月 藤原道山/東風 SINSKE/月夜浮遊ほか
料 金	3,500円<全指定席> ※事業団友の会は1割引 ※未就学児の入場はご遠慮ください
問い合わせ	熱田文化小劇場 TEL 052-682-0222 FAX 052-682-0220



藤原道山 × SINSKE

ドラマチック・シアターみどり 中島啓江 名曲コンサート

中島啓江の歌が聴く人のココロを元気にします。いっぱい笑って、いっぱい泣いて、コンサートが終わる頃には皆きっと生きる勇気に満たされているはず!

曲目(予定)は「アメイジング・グレイス」「花」「涙そうそう」などのヒットソングから「赤とんぼ」「故郷」などみんなで一緒に歌える童謡唱歌まで。

毎回完売大好評の中島啓江コンサート。“100%の感動”を緑文化小劇場がお届けします。

日 時	5月25日(金)18:30
会 場	緑文化小劇場
料 金	3,000円<全指定席> ※事業団友の会は1割引 ※未就学児の入場はご遠慮ください
問い合わせ	緑文化小劇場 TEL 052-879-6006 FAX 052-879-6007



中島啓江

WeiWei Wu が みなとに来た!～二胡新伝説～IN 名古屋 WeiWei Wuデビュー10周年記念ライブツアー

NHK番組「ダーウィンが来た!生きもの新伝説」のエンディングテーマでも有名な二胡プレイヤー・ウェイウェイ・ウーが、港文化小劇場にやってきます。昨年はTBS系ドラマ日曜劇場「JIN—仁—Main Title」が大ヒット、そして今年デビュー10周年を迎え、また新たな二胡伝説を刻みます!

日 時	6月15日(金)18:30
会 場	港文化小劇場
料 金	3,000円<全指定席> ※事業団友の会は1割引 ※未就学児の入場はご遠慮ください
問い合わせ	港文化小劇場 TEL 052-654-8214 FAX 052-654-8215



WeiWei Wu

名古屋市文化振興事業団2013年企画公演 オペレッタ「こうもり」出演者オーディションのお知らせ

公益財団法人名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する企画公演を開催してまいりました。

第29回目を迎える今回は、オペレッタの王様とも称されるウイナ・オペレッタ黄金時代の最高傑作「こうもり」(音楽監督・指揮・編曲/井村誠貴、上演台本・演出/伊藤明子、振付/徳山博士、管弦楽/セントラル愛知交響楽団)を、2013年2月22日(金)~24日(日)<5回公演・日本語上演>、青少年文化センターにて上演します。

この公演の出演者をオーディションで決定します。どうぞ、ふるってご応募ください。

応募資格 次の①~④の条件を満たす方に限ります。

①原則として、名古屋市内または近郊の地域を中心に芸術文化活動を行っている方。

②平成24年4月1日現在で満18歳以上の心身ともに健康な方。

③指定する日時・会場で、稽古及び公演に参加できる方。

※稽古は、11月上旬から本番前日まで主に名古屋市内の会場で行う予定です。この期間は拘束されることをあらかじめご了承ください。また、本番直前には集中的に稽古を行う予定です。

※オーケストラとの合同稽古や、公演直前など参加必須の日程があります。この日程に稽古に参加できない方は原則応募できませんので予めご了承ください。詳細についてはお問い合わせください。

④チケット販売に協力できる方。

実施内容 次のように3種目を実施していただきます。当日は動きやすい服装と靴にてご参加ください。

[歌 唱] 指定課題 (事前配布)

※[歌 唱]の指定課題は声域や難易度に応じて複数用意しています。アイゼンシュタインやアルフレード、ロザリンデやアデーレ、オルロフスキーのアリアをはじめ、基礎的な歌唱力をみるための曲から選択していただきます。

[演 技] 指定課題 (事前配布)

[ダンス(初 級)] } どちらかを選択 (当日指定)
[ダンス(経験者)] }

※演目はオペレッタですが歌唱力に自信のある方に限らず、演技に自信のある方、ダンスに自信のある方にも活躍していただけます。ジャンルにとらわれずふるってご参加ください。

応募料 無 料

日時・会場 <日程> 8月18日(土)または19日(日) ※申し込み後に決定し、お知らせします。

<会場> 芸術創造センター 地下2階 リハーサル室 (東区葵一丁目3番27号)

申込方法 所定の申込書に必要事項を記入のうえ、下記期限までにご提出ください。

<郵送> 8月2日(木) <消印有効>

<持参> 8月3日(金) 17:00

所定の申込書、指定課題については直接ご来訪いただくか、①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤電話番号を明記のうえ、郵便またはFAXにて7月27日(金)<消印有効>までに申し込み先へご請求いただければ郵送します。

なお、提出された書類は返却いたしませんのでご了承ください。

※お申込みいただく際の個人情報は「こうもり」に関する事務連絡及び名古屋市文化振興事業団の文化事業に関するご案内のみに使用させていただきます。

舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 **イーワン.ビデオ.システム**
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム 部門
AV機器販売部門 (家庭用)
映像企画・制作部門
放送関連部門
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る
生きた情報を発信

TVS 株式会社 **東海ビデオシステム**
名古屋市中区上前津二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(営業部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

AV 株式会社 **イーアンドブイ**
TEL 464-0846
名古屋千種区城木町二丁目98
TEL 052 (761) 5400
FAX 052 (761) 0909

結果発表 可否については、受験者全員に文書で通知します。なお審査内容に関する問い合わせには、一切お答えできません。

その他 1. オーディションの結果、該当者がいない場合は、別途出演者を指名する場合があります。
2. 出演者には公演終了後、少額ですが出演料をお支払いします。

問い合わせ・申し込み先

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク 名古屋市青少年文化センター内8階
(公財) 名古屋市文化振興事業団 事業案内「こうもり」係
TEL052-249-9387 FAX052-249-9386 (受付時間: 平日9:00 ~ 17:00)

■あらすじ

役人を侮辱したため刑務所に入るようになったアイゼンシュタインは、“こうもり博士”とあだ名されている友人ファルケに『刑務所に行く前の憂さ晴らしをしよう』と誘われ、妻のロザリンデに内緒でオルロフスキー公爵の夜会へ出掛ける。しかし、それは以前にアイゼンシュタインのいたずらのために恥をかかされたファルケの仕返しのためだった。

夜会でアイゼンシュタインはフランスの侯爵といつわり、女優やハンガリーの貴婦人を口説くものの、実は彼女達は仮装したアイゼンシュタイン家の女中アデーレと妻のロザリンデだった。

アイゼンシュタインは口説くことに失敗したばかりが浮気の証拠として時計まで取り上げられてしまうが、それでも妻だと気づかない。

翌朝、刑務所に出頭したアイゼンシュタインは、既に自分が牢に入っていると聞き驚くが…

□登場人物

♠ アイゼンシュタイン…裕福な銀行家 (テノール)
♠ アルフレード…ロザリンデの元恋人 (テノール)
♠ フランク…刑務所長 (バリトン)
♠ ファルケ…アイゼンシュタインの友人 (バリトン)
♠ フロッシュ…刑務所の看守 (役者ほか)

♥ ロザリンデ…アイゼンシュタインの妻 (ソプラノ)
♥ アデーレ…アイゼンシュタイン家の女中 (ソプラノ)
◆ オルロフスキー公爵…ロシア貴族
(メゾ・ソプラノまたはカウンターテナー)
♥ イーダ…アデーレの姉妹 ほか アンサンブル



2010年企画公演オペレッタ「チャルダッシュの女王」



2010年企画公演オリジナルミュージカル「海の向こうに」



2012年企画公演ミュージカル「シンデレラ」

名古屋市民会館の名称(愛称)が、 平成24年7月1日から変わります

名古屋市民会館のネーミングライツ・パートナーが、平成24年7月1日から、日本特殊陶業株式会社に変わります。これにともなって、施設名、ホール名等が下記のように変わりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。なお指定管理者に変更はございません。

新名称

施設名	にっぽん 日本特殊陶業市民会館
大ホール	フォレストホール
中ホール	ビレッジホール
地下鉄連絡通路	日本特殊陶業市民会館連絡通路

問い合わせ 名古屋市民経済局文化振興室文化施設係 052-972-3175

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人 (椋山女学園大学文化情報学部教授)
小沢優子 (名古屋音楽大学講師)
倉知外子 (オクダ モダンダンス クラスター副代表)
酒井晶代 (愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)
田中由紀子 (美術批評/ライター)
はせひろいち (劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

名古屋能楽堂6月定例公演

◆能・狂言と文学—時代を越える“ことば”と“こころ”—

室町時代前期に大成した能・狂言は、それ以前に成立した古典文学から題材を得て作られました。そして、能・狂言もまた、後代の文学に影響を及ぼしています。今年度の定例公演では、近現代の小説や戯曲の題材となった能・狂言の作品を主に取り上げ、時代を越えて受け継がれてきた日本文学の魅力をお伝えします。6月公演は、泉鏡花の名作『歌行燈』の素材となった能「海人」をお贈りします。

能 『海人』(宝生流) シテ 竹内澄子

狂言『鬼瓦』(和泉流) シテ 大野弘之

開演前ショート解説「『海人』の見どころ・聞きどころ」衣斐愛

日 時 6月2日(土)14:00
※13:45から開演前ショート解説があります。

料 金 〈指定席〉4,000円
〈自由席〉一般3,000円、学生2,000円
※友の会会員は1割引(前売のみ)
※自由席は当日500円増

問い合わせ 名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



能「海人」

ワンコイン名作映画シリーズ ミナミシネマ vol.15

南文化小劇場で2ヶ月に1度なつかしの名画をワンコインで観るシリーズの第15弾は、「雨に唄えば」を上映します。

あらすじ

サイレントからトーキーへと映画が変わっていく1920年代。俳優ドン(ジーン・ケリー)は、容姿は抜群だが声がイマイチの大女優リーナ(ジーン・ヘイゲン)に替わり、若くて歌もダンスも上手いキャシー(デビー・レイノルズ)を担ぎ出そうとするが、リーナの嫉妬から一度は辛い別れとなってしまふ。しかし、時代の流れは止まらず、ハリウッドは新たなスターを求めていた…。

どしゃ降りの雨の中、『雨に唄えば』を歌い踊るケリーはミュージカル映画屈指の名シーン!

日 時 6月19日(火)13:30
会 場 南文化小劇場 TEL 052-823-6511
上映作品 「雨に唄えば」(1952年/1時間41分)
料 金 〈全自由席〉一般 500円
事業団友の会会員 450円(前売のみ)
問い合わせ 南文化小劇場 TEL 052-823-6511 FAX 052-823-6512



名古屋市文化基金のご案内

名古屋の文化を創るのは、あなたです。

名古屋市文化基金(名古屋市市民文化振興事業積立基金)は、市民生活に潤いをもたらす名古屋の文化の発展のために、昭和57年に設置されました。この基金は、皆様からのご寄附と市の出資金を積み立て、その運用による果実(利息)で、市民の文化振興のための事業を実施することに役立てられています。

皆様からのご寄附をお待ちするとともに、今後ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

参加体験事業

市民の皆様が参加・体験できる事業を積極的に展開しています。

鑑賞事業

伝統芸能をはじめ、優れた舞台芸術を紹介しています。

支援育成事業

市民の皆様が行う創造的な文化活動を支援しています。

情報発信事業

「なごや文化情報」などを発行し、文化情報を広く提供しています。



名古屋市文化基金は、ふるさと寄附金(納税)制度の適用対象となります。

※名古屋市民の皆様方が、名古屋市文化基金に寄附される場合も、この制度によって税額控除を受けることができます。税控除等の詳細につきましては、リーフレット又は市公式ウェブサイトをご覧ください。

問い合わせ

名古屋市市民経済局文化振興室 TEL 052-972-3172
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト トップページ

文化 基金

検索



感動を育てる種をまこう。
名古屋市文化基金